

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

学校法人八尾聖光学園 聖光幼稚園

1. 園の保育目標

幼稚園は生涯教育の第一歩です。そのため子ども一人ひとりの遠い将来を見据えた地道な教育が必要です。つまり幼児期は花を咲かせる時期ではなく、土の下に隠れていて今は見えない「根っこ」に十分な水と栄養を与えていく時期だと考えています。

本園では望ましい幼児の姿として、次の3項目を挙げています。

1. 思いやりのある子
2. 物を大切にする子
3. 自分で考えて、自分の思いを表現できる子

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することで、保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、環境全般の改善、保育内容や保育方法の改善に主体的にとりこんでいくことを目標とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況と評価

評価項目	取組状況	評価
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	幼稚園教育要領の理解を全教職員で積極的に推進し、それを実際の保育に添わせるように、具体的な場面について話し合いを行っている。	A
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスで月や週の保育目標を定め、毎学期ごとに達成状況を報告し合うようにしている。	A
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	幼児の発達の姿をとらえるための研修を定期的実施するとともに、日々の子どもの姿について話し合う機会を毎日の職員会議で持つようにし、自由闊達に意見が開示できる環境を作っている。	A
特別支援教育	職員全員で支援を要する幼児の課題に関するカンファレンスを行い、チームティーチングの機能と充実に努める。特別支援教育の専門家に巡回相談を依頼し、その指導・助言を参考に、支援を必要とする園児のニーズを適確に読み取るよう努力している。保護者との連携を密にし、園との信頼関係を図るよう努めている。また医療・福祉の関係機関との連携の充実に	A

	はかっている。また、大学から講師を招き、特別支援教育の研修を園内で行い、園外からの参加も求め意見交換を行っている。	
幼保小連携	卒園児の就学前に就学予定の地域小学校への丁寧な引継ぎを行っている。教員が幼保小連携研修に参加できるよう配慮し、他園や小学校との情報交換を積極的に行った。	A
施設・環境の整備と充実	園庭の遊具や教室内の遊具の点検を定期的に行い、安全で豊かな園生活が過ごせるための工夫をした。 新しい大型遊具の設置が、子どもたちの遊びの幅を広げた。	B

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	保育者一人ひとりが学校評価の趣旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も客観的な目で自らの保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねていきたい。保育者・職員間のコミュニケーションを積極的に図り、課題の解決に向けた共通認識を持つことができた。 概ね目標を達成できた。

「3. 4. 」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者情報が市教育委員会や警察から、随時提供されるようになってきたが、それに対する園での対応が充分ではないので、施設面での対応と、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルの作成を引き続き行いたい。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、保護者の意見を尊重し、さらなる保育や運営の改善に向けて本園のビジョンを策定する基礎としたい。

6. 学校関係者評価委員会の意見

学校関係者評価委員からは概ね良好な運営をされているとの評価を得ている。特に園外保育は積極的に行われ、子どもたちが普段体験できないような自然との触れ合いができているのは大いに評価できる。未就園児保育、親子教室、キダーカウンセリング等の子育て支援にも積極的に取り組んでおり、その他保護者からのニーズにも真摯に耳を傾け、早期の改善や解決に向けて積極的に取り組んでいるとの評価をいただいた。